

2017年11月1日
株式会社日本政策金融公庫

第194回 信用保証利用企業動向調査結果の概要

(2017年7～9月期実績、10～12月期見通し)

**[概況] 信用保証利用企業の資金繰りは、改善傾向に一服感が見られる
～景況は一部に弱い動きが見られるものの、持ち直しの動きが続いている～**

- 【金融関連】**
- 資金繰りD.I.は、▲6.1とマイナス幅がやや拡大し、6期ぶりに悪化した。
 - 借入難易感D.I.は、2.2と横ばいとなり、4期連続でプラスとなった。
 - 今期に借入を実施した企業の割合は、やや減少した。
- 【保証利用】**
- 今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、やや増加した。
 - 来期(17年10～12月)における保証利用要請D.I.は、2.7と横ばい。
※ 保証利用要請D.I.・・・金融機関による保証利用要請が「強くなると思う」企業の割合－「弱くなると思う」企業の割合。
- 【生産等】**
- 生産・売上D.I.は、0.0と横ばい。
 - 採算D.I.は、▲2.5とマイナス幅がやや縮小し、改善傾向が続いている。
-
- 【特別調査】 「経営課題・経営支援について」**
- 信用保証利用企業が抱えている経営課題については、「人材の確保・育成(後継者対策含む)」が最多、次いで、「営業力・販売力の強化」、「販路の開拓」となっている。
 - 経営課題における相談相手については、「税理士・公認会計士」が最多、次いで、「金融機関」、「商工会・商工会議所」となっている。
一方、「特に相談していない」と回答した企業の割合は3割を超えており、そのうち9割超の企業は経営課題を抱えていると回答している。
 - 金融機関や信用保証協会に求める経営支援については、「地方公共団体の補助金・制度融資に係る情報提供」が最多、次いで「業界動向・他社の成功事例等の情報提供」、「ビジネスマッチング」、「定期的な訪問・フォローアップによる経営相談」となっている。

<調査の要領>

調査時点	2017年9月中旬
調査対象	9地域(北海道、宮城、東京、愛知、石川、大阪、広島、香川、福岡)の信用保証協会利用先 16,000企業を対象としており、 回答企業の約78%が従業員20人以下の小規模企業 となっています。
有効回答企業数	3,409企業
回答率	21.3%

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 中小企業事業本部 保険企画部 Tel:03-3270-2384(担当:辰口、野口、土田)
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

本資料は日本銀行内金融記者クラブ、経済産業記者会に同時配布しております。

(1) 資金繰り

・資金繰りD.I.は、▲6.1とマイナス幅がやや拡大し、6期ぶりに悪化した。

		2016/7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9	10-12
資金繰りD.I.	実績	▲10.4	▲9.2	▲7.5	▲3.9	▲6.1	
	見通し	▲9.3	▲6.3	▲4.9	▲1.0	▲1.3	▲0.3

(注) 前期比。資金繰りD.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。

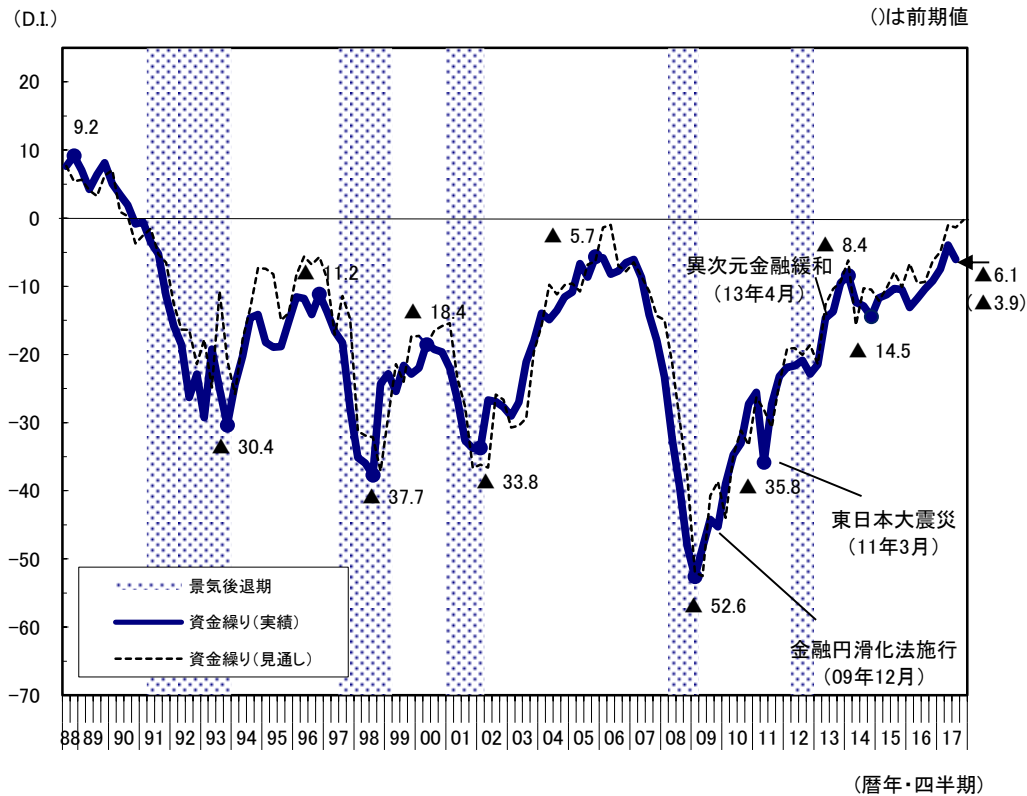
(2) 借入難易感

・借入難易感D.I.は、2.2と横ばいとなり、4期連続でプラスとなった。

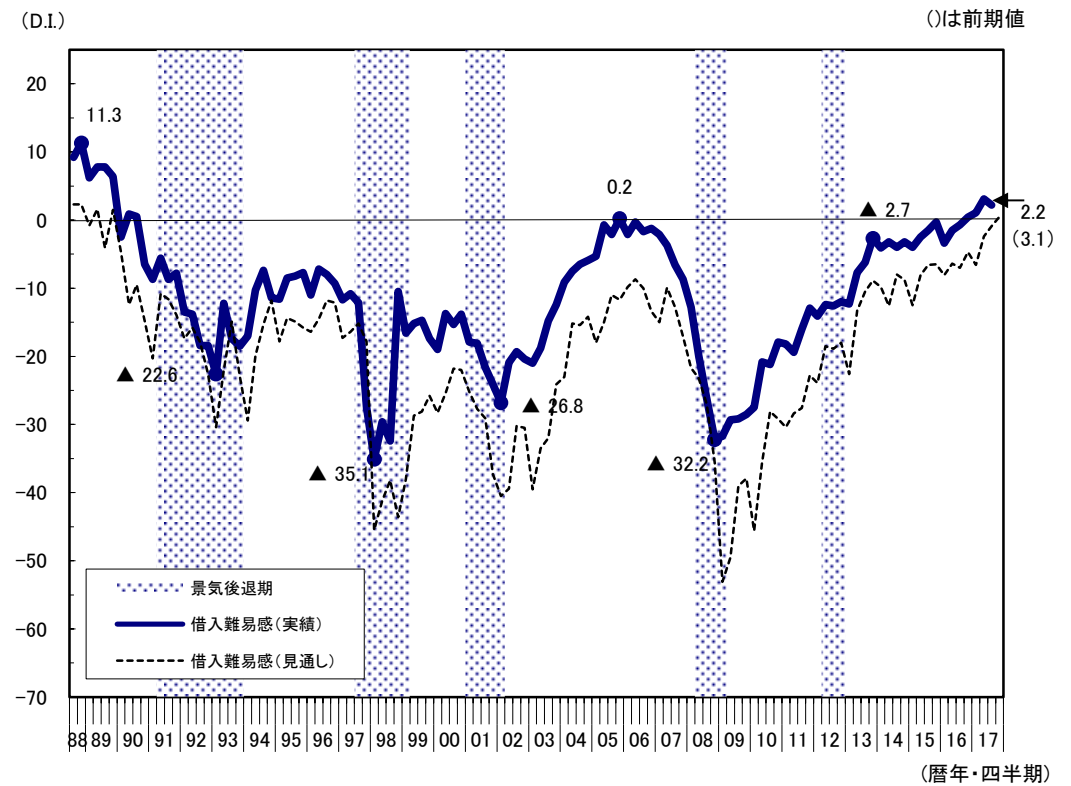
		2016/7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9	10-12
借入難易感D.I.	実績	▲0.7	0.4	1.1	3.1	2.2	
	見通し	▲7.0	▲4.7	▲6.6	▲2.4	▲0.9	0.5

(注) 前期比。借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

資金繰りD.I.(季節調整値)の推移



借入難易感D.I.の推移



(3) 借入状況

・今期に借入を実施した企業の割合は、やや減少した。
従業員規模別にみると、「0-20人」の企業層の減少幅に比べ、「21人以上」の企業層の減少幅が大きい。

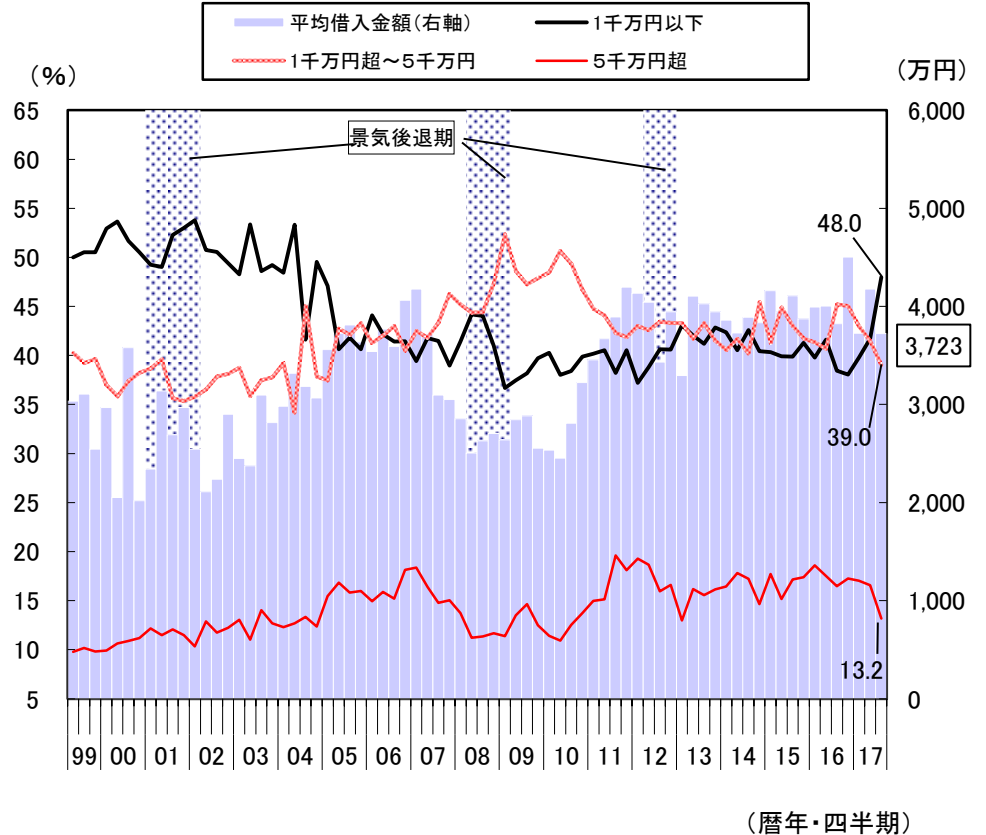
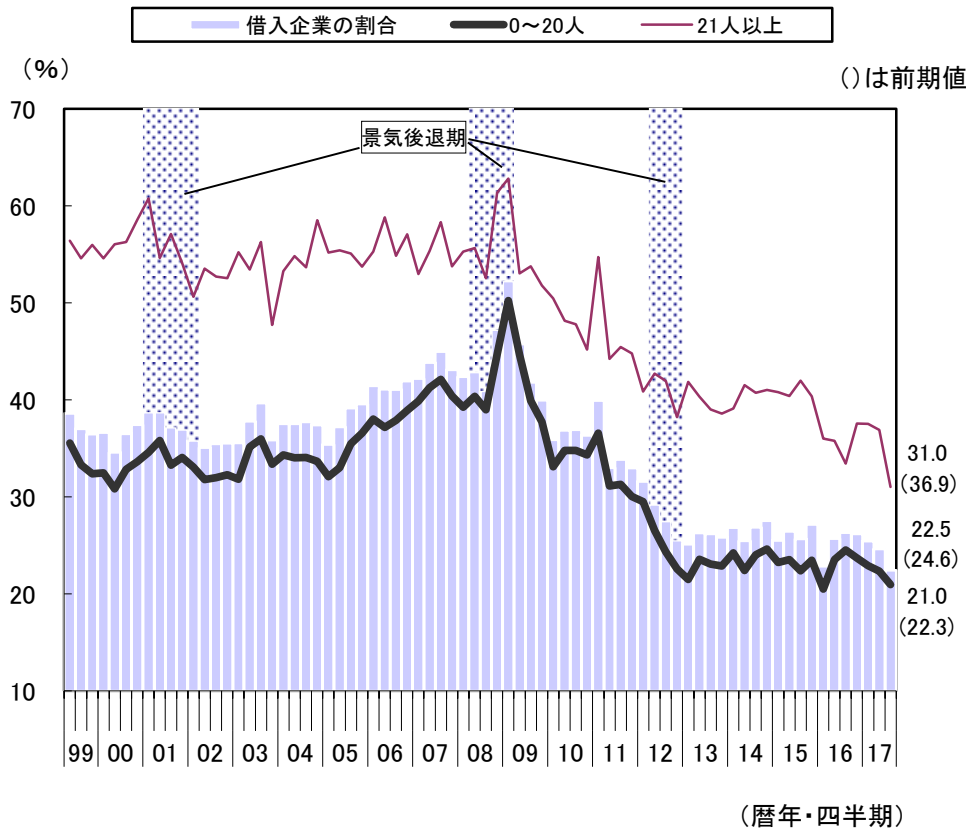
・一社あたりの借入金額別構成比は、「1千万円以下」が増加した一方で、「1千万円超～5千万円」及び「5千万円超」がやや減少した。

① 借入を実施した企業の割合(季節調整値)

	2016/7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9
借入企業の割合	26.3	26.2	25.5	24.6	22.5
0-20人	24.5	23.7	22.9	22.3	21.0
21人以上	33.4	37.6	37.5	36.9	31.0

② 一社あたりの借入金額別構成比(季節調整値)

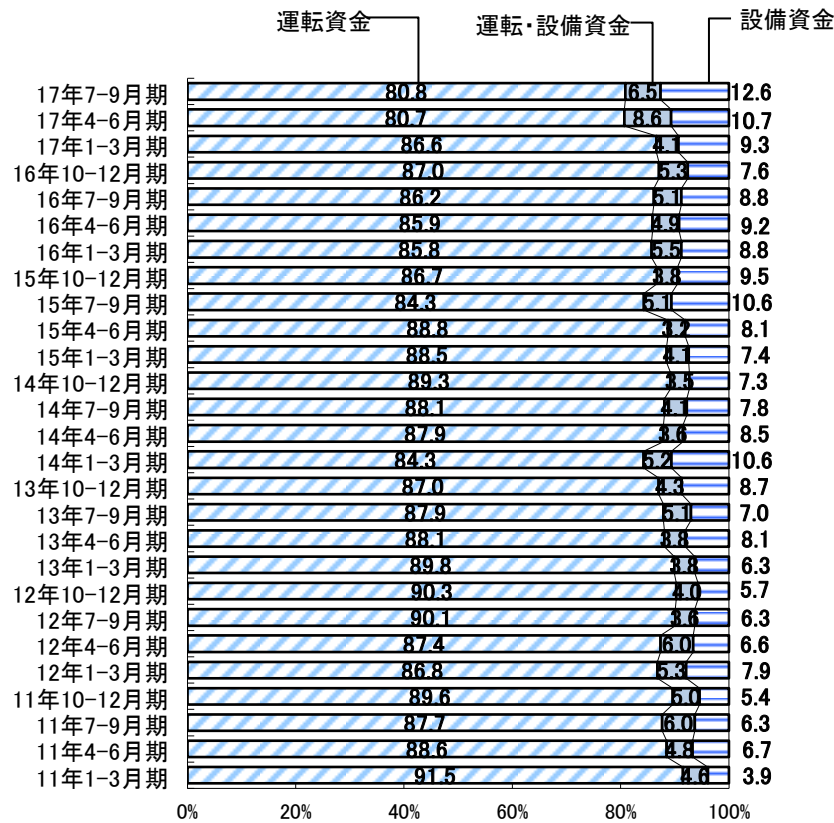
	2016/7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9
1千万円以下	38.4	38.0	39.8	41.7	48.0
1千万円超～5千万円	45.2	45.0	43.0	41.5	39.0
5千万円超	16.5	17.2	17.0	16.6	13.2



(注)「借入」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計したものである。

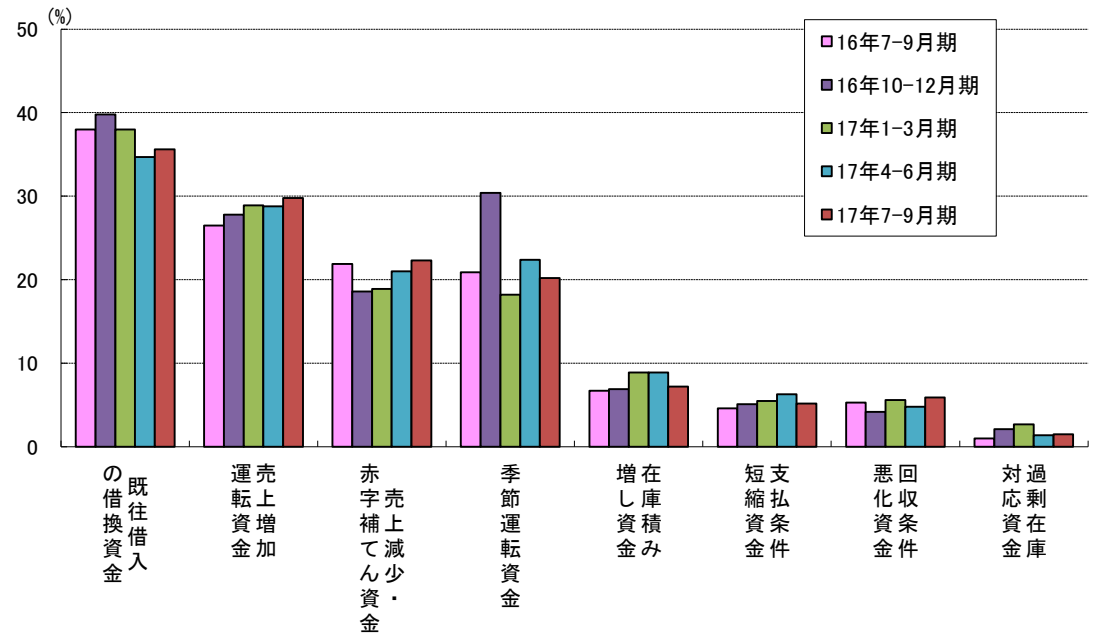
・資金使途については、設備資金がやや増加し、2期連続で10%を上回った。
 なお、運転・設備資金と設備資金の構成比を合計すると、約2割となった。

③-1 資金使途の構成



③-2 運転資金の内訳

(原数値)	既往借入の借換資金	売上増加運転資金	売上減少・赤字補てん資金	季節運転資金	在庫積み増し資金	支払条件短縮資金	回収条件悪化資金	過剰在庫対応資金
17年 7-9月期	35.6	29.8	22.3	20.2	7.2	5.2	5.9	1.5
4-6月期	34.7	28.8	21.0	22.4	8.9	6.3	4.8	1.4
1-3月期	38.0	28.9	18.9	18.2	8.9	5.5	5.6	2.7
16年 10-12月期	39.8	27.8	18.6	30.4	6.9	5.1	4.2	2.1
7-9月期	38.0	26.5	21.9	20.9	6.7	4.6	5.3	1.0



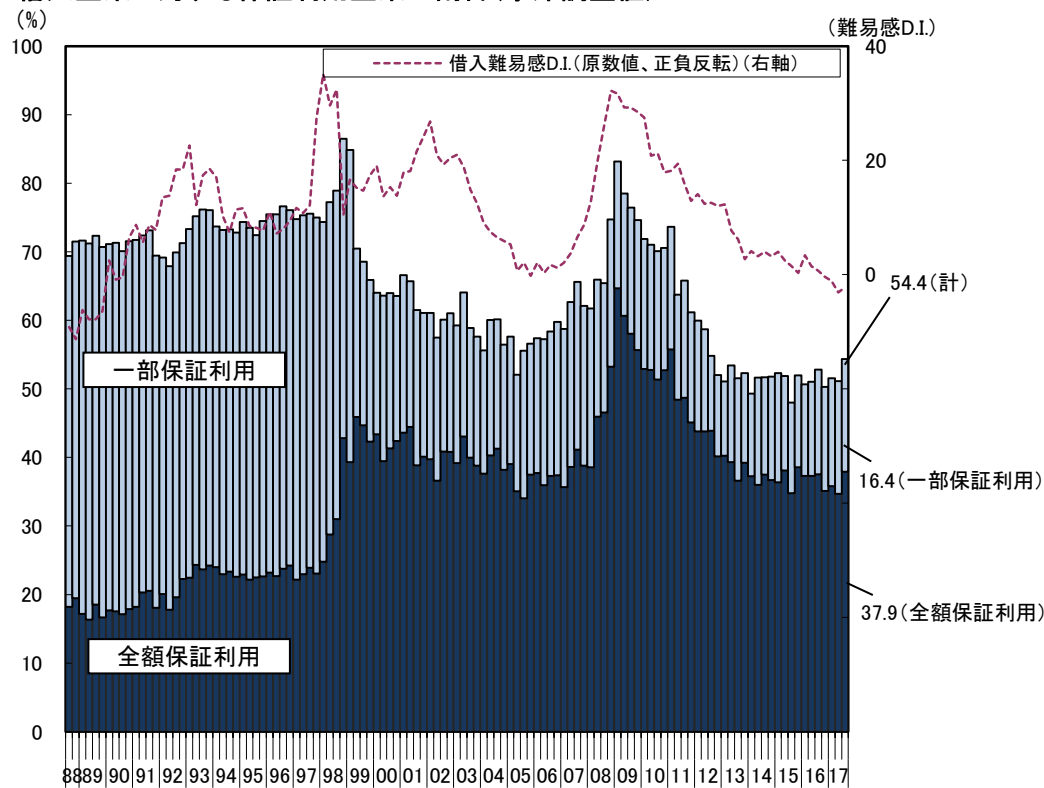
(注) 1.複数回答のため、合計は100を超える。
 2.「資金使途」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計した借入金に係るものである。

(4) - 1 保証利用状況

・今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、やや増加した。

	2016/7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9
保証利用企業の割合	52.8	50.3	51.5	51.1	54.4
全額利用	37.5	35.1	35.8	34.7	37.9
一部利用	15.3	15.2	15.7	16.5	16.4
プロパーのみ利用企業の割合	47.2	49.7	48.5	48.9	45.6

借入企業に対する保証利用企業の割合(季節調整値)



(暦年・四半期)

(4) - 2 金融機関からの保証利用要請

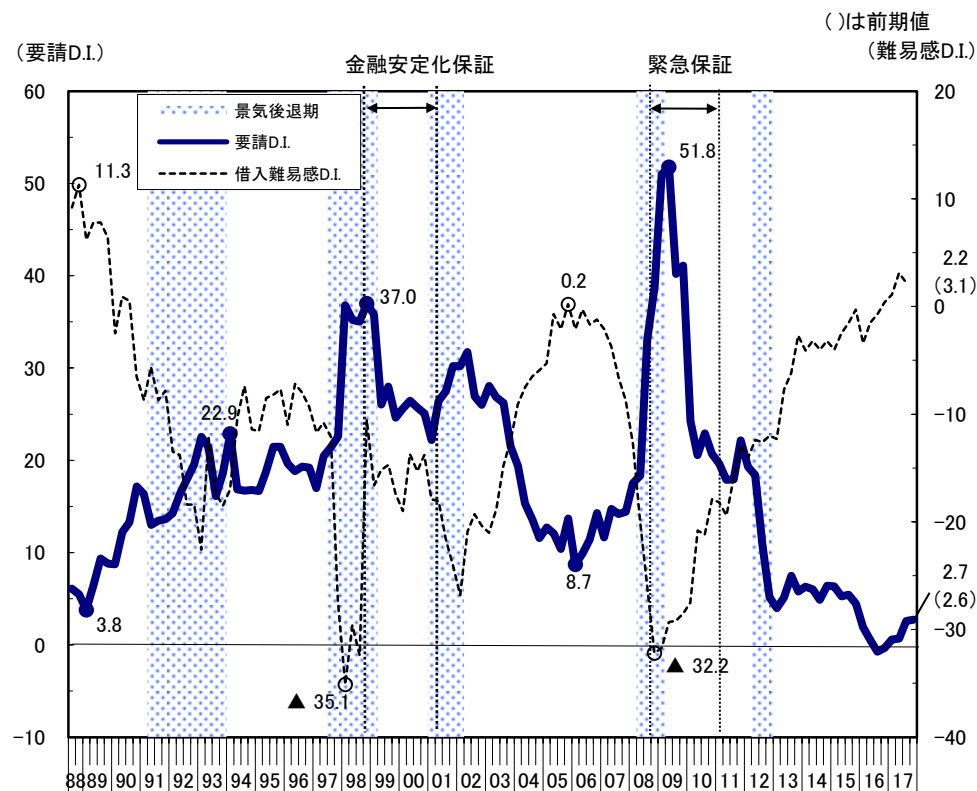
・来期(17年10~12月)における保証利用要請D.I.は、2.7と横ばい。

	2016/7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9	10-12
要請D.I. 見通し	▲ 0.7	▲ 0.3	0.6	0.7	2.6	2.7
借入難易感D.I. 実績	▲ 0.7	0.4	1.1	3.1	2.2	

(注) 1.前期比。要請D.I.は、「強くなると思う」企業の割合-「弱くなると思う」企業の割合。季節調整値。

2.借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

金融機関からの要請D.I.(季節調整値)及び借入難易感D.I.の推移



(暦年・四半期)

(5) 生産・売上

・生産・売上D.I.は、0.0と横ばい。

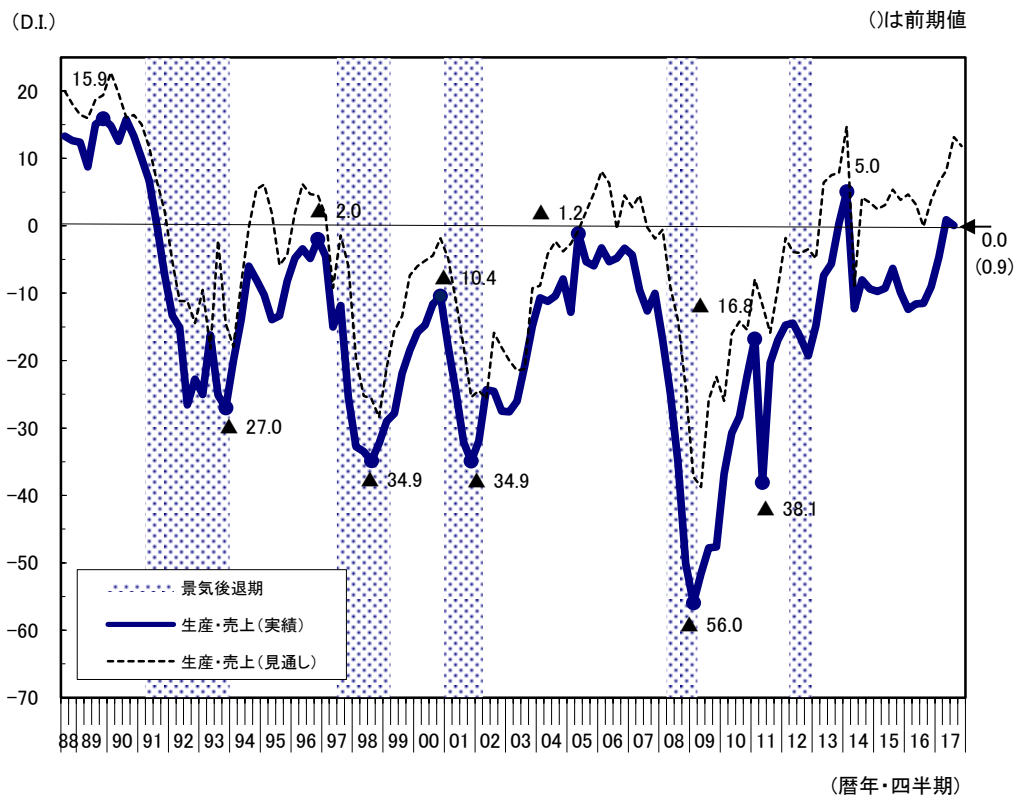
		2016/7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9	10-12
生産・売上D.I.	実績	▲ 11.5	▲ 9.0	▲ 4.6	0.9	0.0	
	見通し	▲ 0.1	3.8	6.5	8.2	13.1	11.8

(注) 前期比。生産・売上D.I.は、「増加」企業の割合-「減少」企業の割合。季節調整値。

生産・売上(業種別)

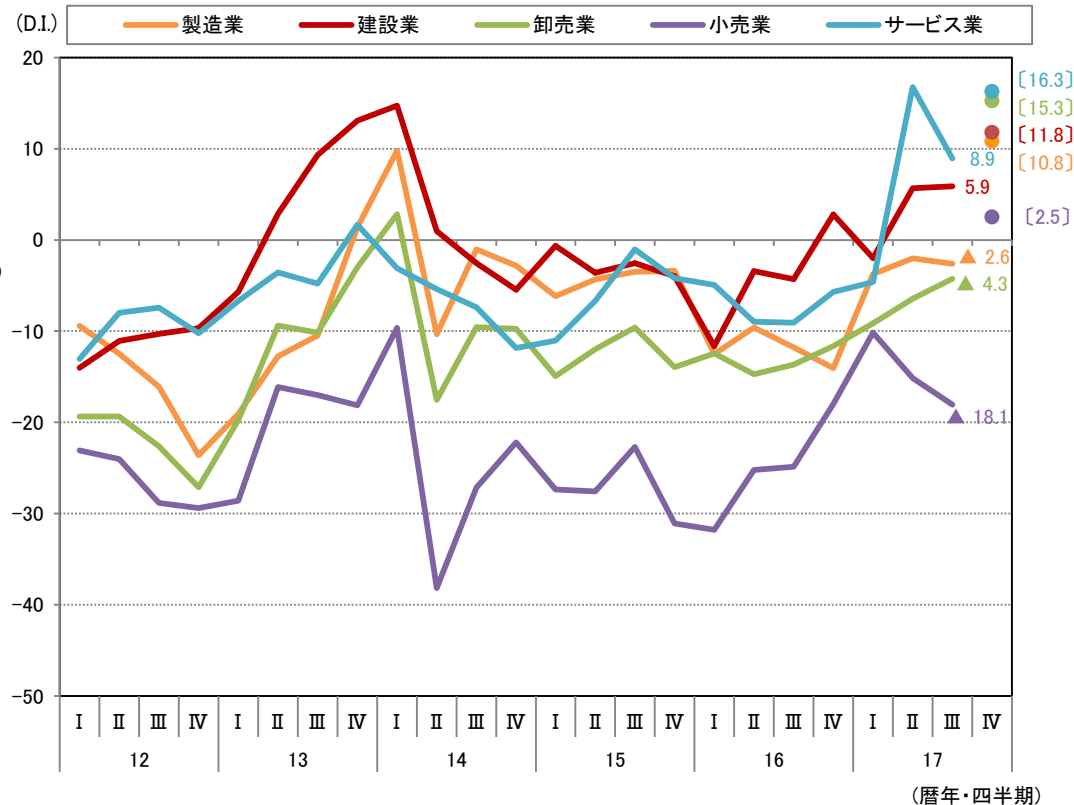
・生産・売上D.I.(業種別)は、サービス業では低下し、小売業ではマイナス幅がやや拡大。一方で、卸売業ではマイナス幅がやや縮小した。

生産・売上D.I.(季節調整値)の推移



業種別生産・売上D.I.(季節調整値)の推移

[]は来期見通し(当期比)

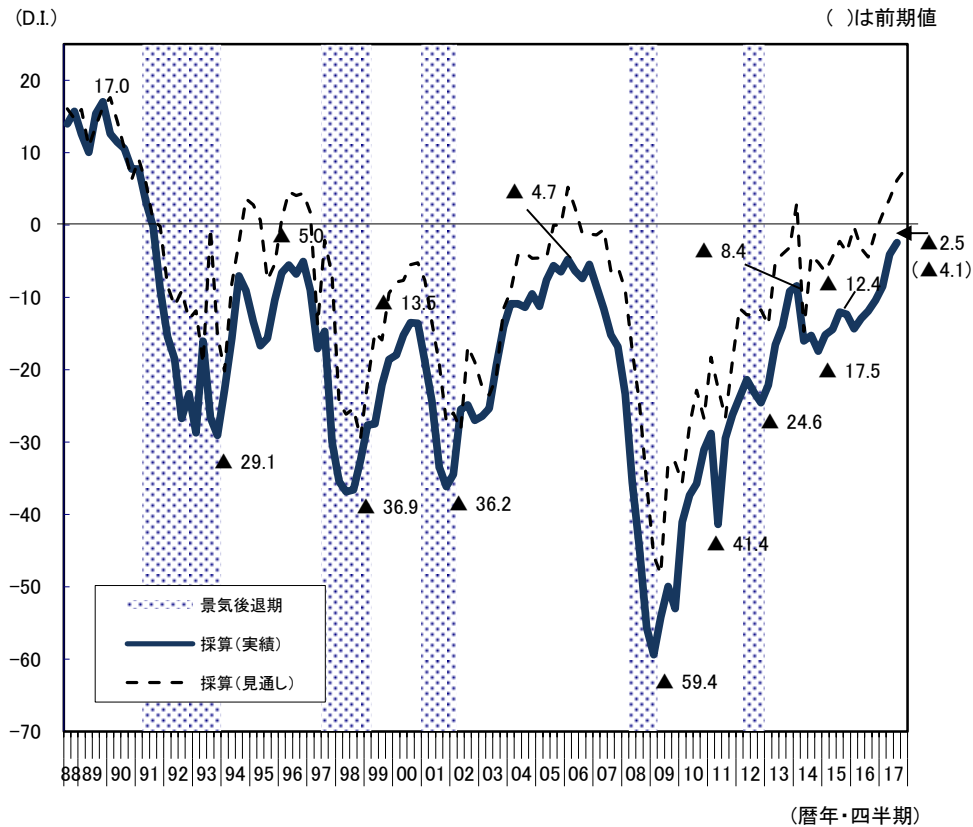


(6) 採算

・採算D.I.は、▲2.5とマイナス幅がやや縮小し、改善傾向が続いている。

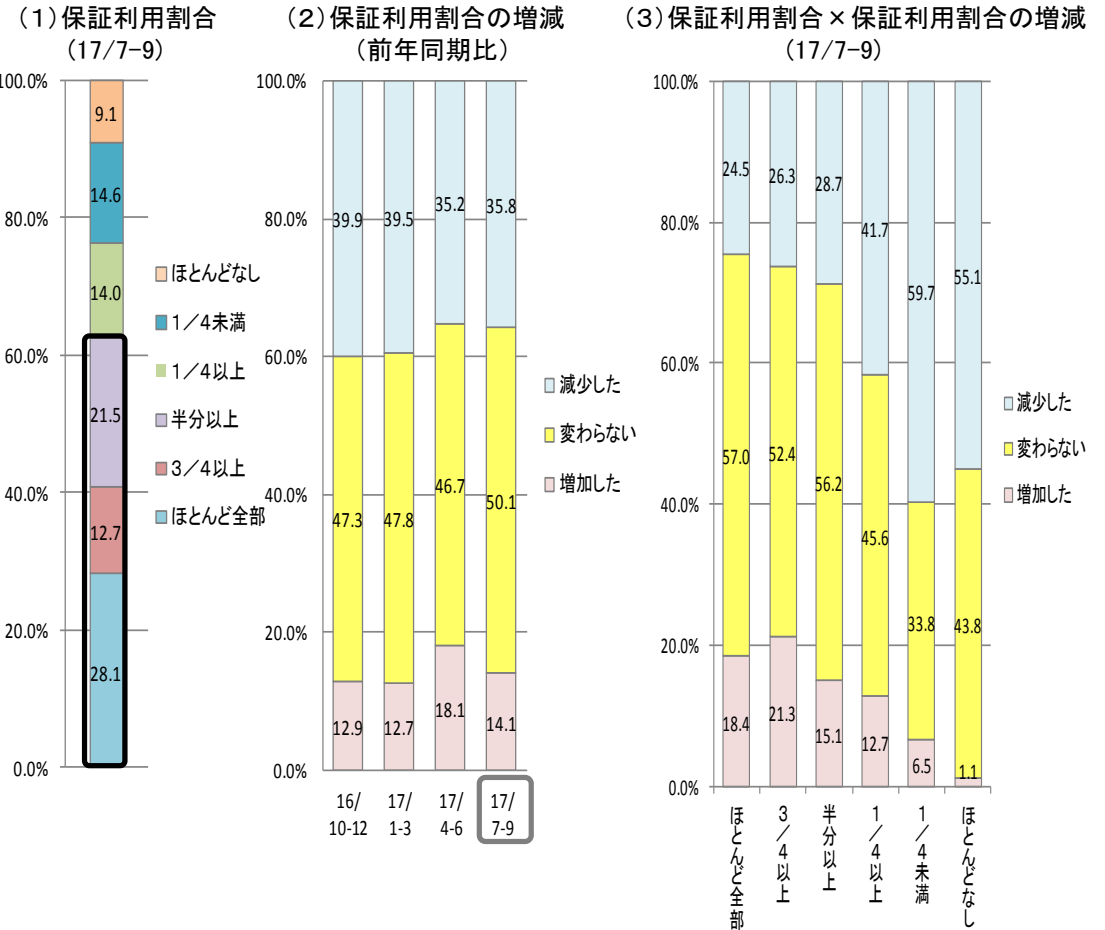
		2016/7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9	10-12
採算D.I.	実績	▲ 11.9	▲ 10.4	▲ 8.5	▲ 4.1	▲ 2.5	
	見通し	▲ 4.4	▲ 0.9	1.5	3.6	6.2	7.5

(注) 前期比。採算D.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。



(参考) 保証利用割合

- ・借入総残高に占める信用保証利用の割合については、半分以上と回答した企業が60%強となった。
- ・前年同期末と比べた信用保証利用の割合の増減については、減少したと回答した企業が35.8%、変わらないが50.1%、増加したが14.1%となった。
- ・借入総残高に占める信用保証利用の割合が少ないほど、前年同期末と比べて信用保証利用の割合が減少する企業が多くなる傾向がみられた。



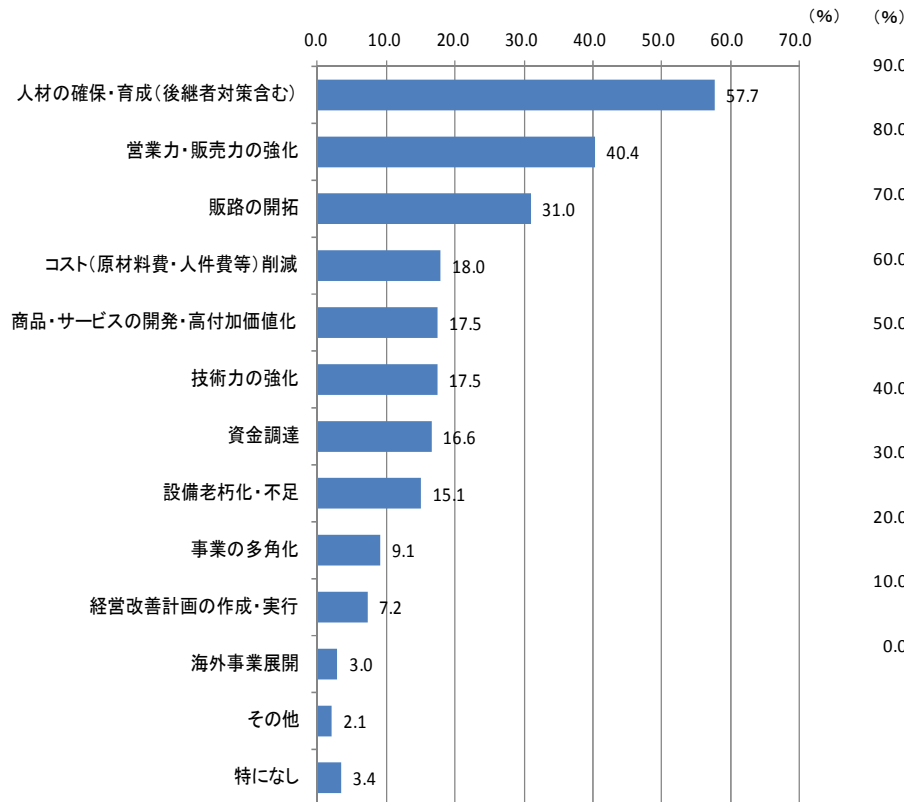
特別調査

1. 信用保証利用企業が抱えている経営課題について

・信用保証利用企業の経営課題については、「人材の確保・育成(後継者対策含む)」が最多、次いで、「営業力・販売力の強化」、「販路の開拓」となっている。

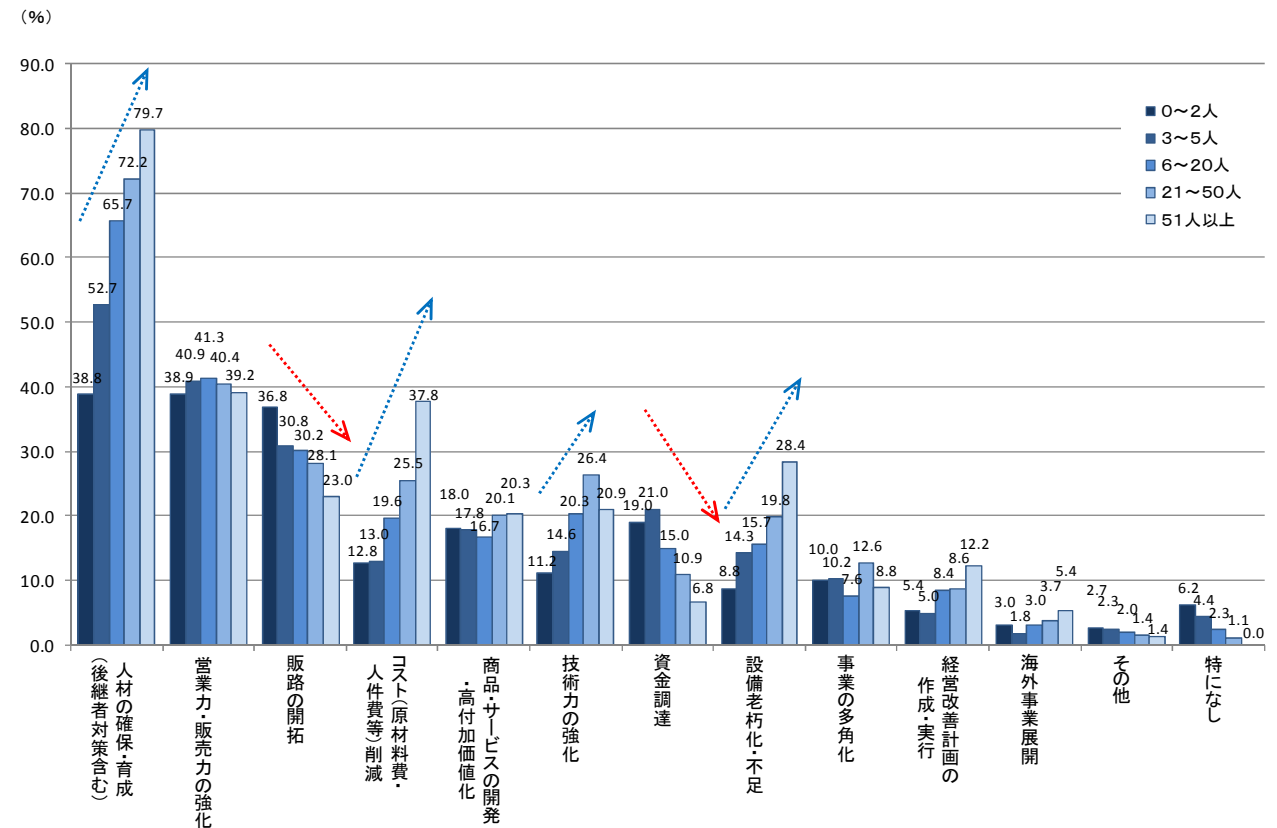
・課題ごとに従業員規模別で見ると、「人材の確保・育成(後継者対策含む)」、「コスト(原材料費・人件費等)削減」、「技術力の強化」、「設備老朽化・不足」については、規模の大きな企業ほど回答割合が高い傾向である。一方、「販路の開拓」、「資金調達」については、規模の小さな企業ほど回答割合が高い傾向である。

(1) 信用保証利用企業の経営課題



(注)複数回答のため、合計は100%を超える。

(2) 信用保証利用企業の経営課題(課題別×従業員規模別)

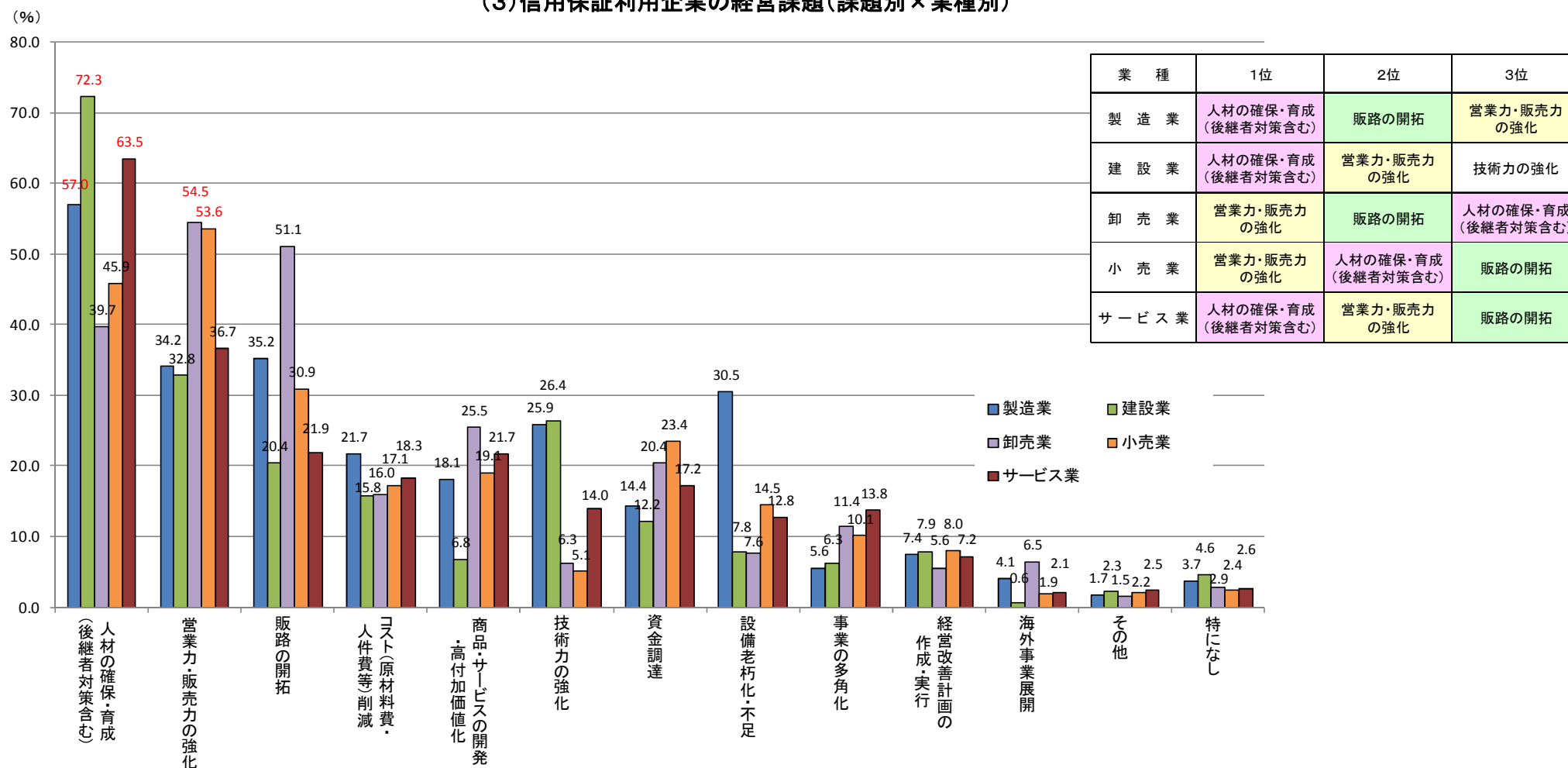


(注)複数回答のため、合計は100%を超える。

1. 信用保証利用企業が抱えている経営課題について（つづき）

- ・業種別にみると、製造業、建設業、サービス業では「人材の確保・育成(後継者対策含む)」が最多、卸売業、小売業では「営業力・販売力の強化」が最多となっている。
- ・「販路の開拓」は建設業以外の業種において上位3項目に入っており、建設業では「技術力の強化」の回答割合が26.4%で、3番目に多い回答となっている。また、製造業では「設備老朽化・不足」の回答割合が高く、3割を超える企業が経営課題として挙げている。

(3) 信用保証利用企業の経営課題(課題別×業種別)



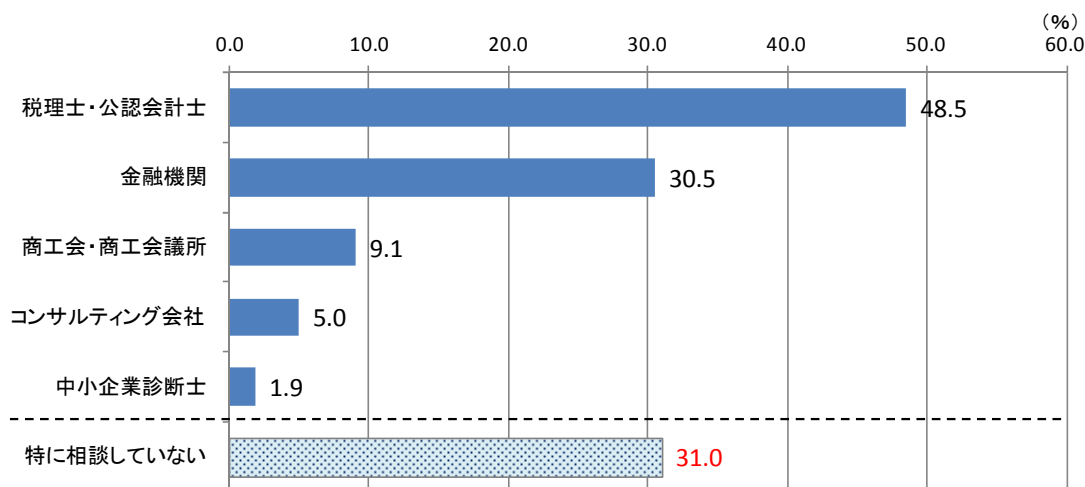
(注1) 複数回答のため、合計は100%を超える。

(注2) 赤色の数値は各業種において回答割合が最も高かったもの。

2. 信用保証利用企業の経営課題における相談相手について

- 信用保証利用企業の相談相手については、「税理士・公認会計士」が最多、次いで、「金融機関」、「商工会・商工会議所」となっている。一方、「特に相談していない」と回答した企業の割合は3割を超えており、そのうち9割超の企業は経営課題を抱えていると回答している。
- 従業員規模別にみると、「金融機関」、「コンサルティング会社」については、規模の大きな企業ほど回答割合が高く、「商工会・商工会議所」については、規模の小さな企業ほど回答割合が高い傾向である。また、「特に相談していない」については、規模の小さな企業ほど回答割合が高い傾向である。

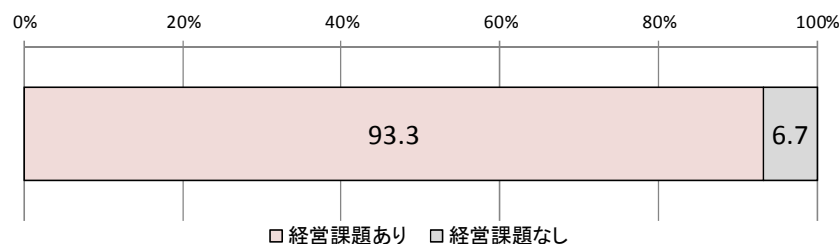
(1) 信用保証利用企業の経営課題における相談相手



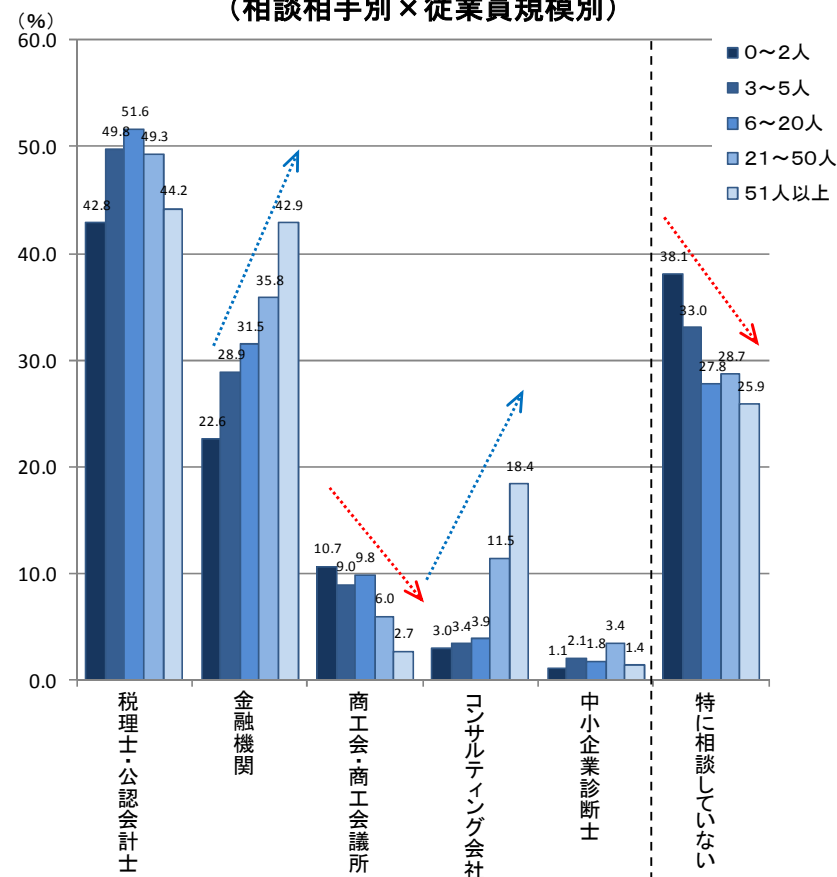
(注1) 複数回答のため、合計は100%を超える。

(注2) 回答割合の多かった上位5項目及び「特に相談していない」を表示したものの。

(参考) 「特に相談していない」企業の経営課題の有無



(2) 信用保証利用企業の経営課題における相談相手
(相談相手別×従業員規模別)



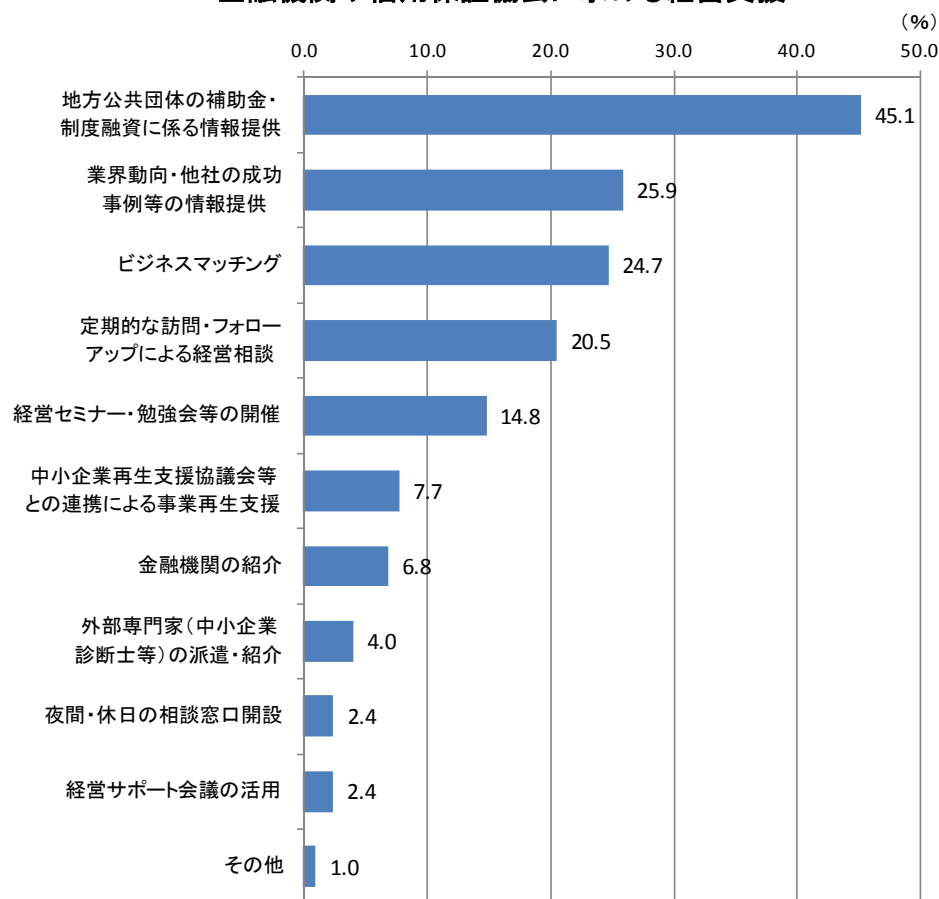
(注1) 複数回答のため、合計は100%を超える。

(注2) 回答割合の多かった上位5項目及び「特に相談していない」を表示したものの。

3. 金融機関や信用保証協会に求める経営支援について

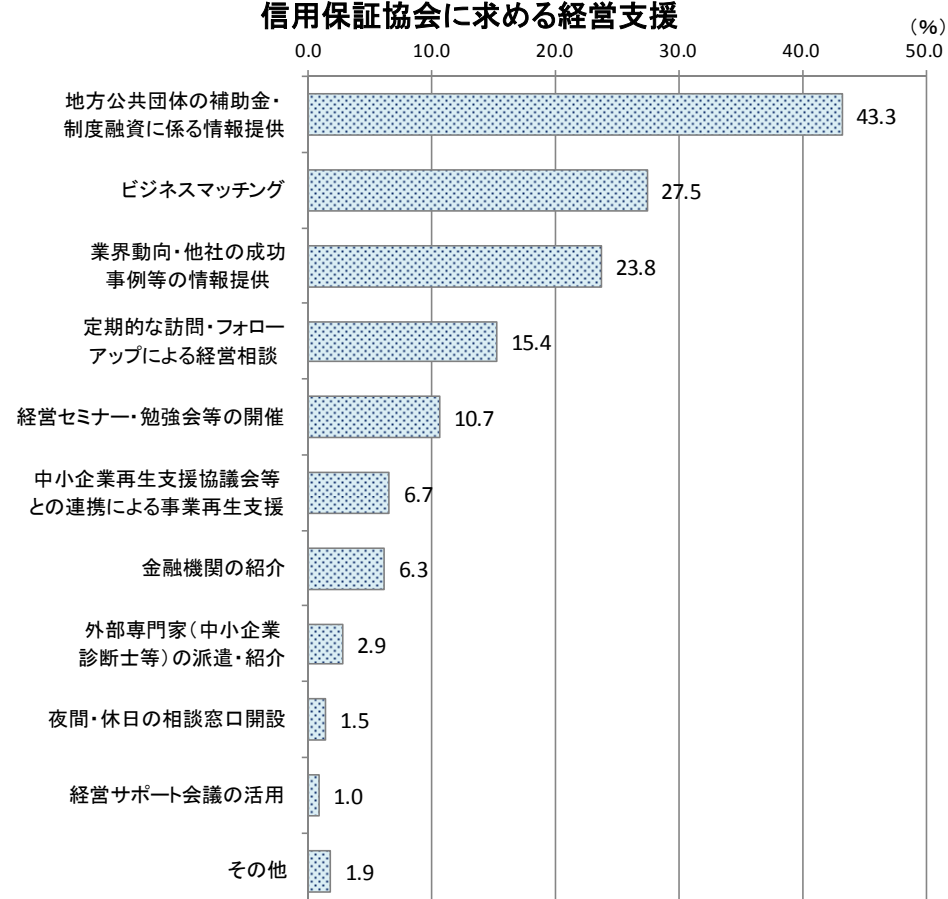
- ・金融機関や信用保証協会に求める経営支援については、「地方公共団体の補助金・制度融資に係る情報提供」が最多。次いで、「業界動向・他社の成功事例等の情報提供」、「ビジネスマッチング」、「定期的な訪問・フォローアップによる経営相談」となっている。
 - ・経営課題について「特に相談していない」と回答した企業(注)においても、「地方公共団体の補助金・制度融資に係る情報提供」が最多。次いで、「ビジネスマッチング」、「業界動向・他社の成功事例等の情報提供」となっている。
- (注) 前述「2. 信用保証利用企業の経営課題における相談相手について」のグラフ(1)参照。

金融機関や信用保証協会に求める経営支援



(注) 複数回答のため、合計は100%を超える。

「特に相談していない」企業が金融機関や信用保証協会に求める経営支援



(注) 複数回答のため、合計は100%を超える。